



大野市教育委員会たより

令和元年9月25日発行 第18号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思えます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：9月17日（火）午後7時～8時50分 次第 ・1部 子育て講演（講師：久保教育長）
場 所：開成こども園 ・2部 意見交換
対象者：開成こども園保護者（9人）・保育士（9人）

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎有終東小の今年の夏休みの宿題がすごく少なく、この方法がうまくいったら広げていくと聞いた。宿題を少なくするメリットはあるのか。
 - ⇒ ■家庭学習の習慣が大事であると思っている。生涯を通じて学習していく場合、勉強するのは自分である。学校は学習内容を教えるのではなく、学習の仕方を教える所と考える。高校入試や大学入試、専門的な資格を取る時は自らで勉強しないといけない。そのようなことから、家庭学習は生涯学習の基本になっていると思う。一律に出していた宿題を個の状況に応じて出すべきではないかと今年度、校長会を通じて話をしている。有終東小の夏休みの宿題は非常に少ない訳ではない。基本の宿題はあるが、それ以外は進んでやれる子はやろうということである。自由研究は理科だけでなく、家族旅行を通じた研究などもある。有終東小の校長は、夏休みの宿題の出し方について教職員で協議して、保護者への便りの中に学習の事例を数多く挙げている。「親が宿題を手伝う」から、「親子が一緒になって学習していく」ことになってきている。
 - ⇒ ◎有終東小の保護者には、その意図は伝わっているのか。
 - ⇒ ■校長が便りを保護者に出して説明している。
- ◎有終南小の夏休みの宿題は、結構多いと感じた。分厚い「夏休みの友」の他にプリントなどがあり、それを全校登校日に回収するとか、どれだけ進んでいるかの先生のチェックが入っていた。勉強が嫌にならないかと考えている。夏休みの自由研究は、1年生は強制ではなかったが自主的に出した。それが「一番楽しかった」と言っていた。子どもは何のために勉強するのか分からない。学校がもっと楽しくなるように導いて欲しい。
 - ⇒ ■夏休みだからこそ出来ることがある。絵を1つ描くにしても、授業では時間が限られているが、夏休みでは1日かけて思いっきり描ける。自分の得意なものを思いっきりやってみる機会があり、それが自信につながっていくと考えている。
- ◎子どもが学校でプログラミングの授業をして欲しいと言っていた。A I（人工知能）のその先にあることを見据えた教育をして欲しい。その他に、グラウンドの周りにトロッコ列車を走らせて欲しいと言っていた。
 - ⇒ ■来年度、小学校でプログラミング教育を行う予定となっている。5・6年生を中心に言い、本年度の3学期に導入予定のタブレットも使いながらの授業となる。学校によっては、パソコンクラブがあり、そのクラブで行う場合もある。まだ、教員自身がプログラミング教育の勉強段階であり、徐々に行う予定としている。この秋に、教員のプログラミング教育の研修会を行う。
 - ⇒ ■プログラミング教育と聞いて、家にパソコンがないとか、子どもはついていけるだろうかとか不安になるかもしれないが、パソコンを使ってプログラムを組むというのではなく、「ここから、あっちへ行くにはどういう行き方があるか」などの考え方を学ぶのが基本となるので、心配しないで欲しい。
- ◎子どもがA Iに関するニュースを見て「30年後にお母さんやお父さんの今の仕事はあるの？」と聞いてきた。私たちが経験したことのない速度で世の中が変わり、将来どのようになるのかは、子どもには全く描けない。学校では、自分たちの時と違って、みんなで考えたり、発表したり、見学したりしている。人と連携する力、自分の意見を伝える力がすごく大事になってくる中で、小学校ではそのような機会をたくさん作ってもらっていると思う。
 - ⇒ ■A Iが飛躍的に進化してくると、今の職業の在り方が大きく変わるのではないかとという中で、人工知能に勝るのは、「考え、判断し、話し合っってアイデアを出す」ことであるとされている。学校では、友達と話をしながら、自分の考えを深めていく授業に取り組んでおり、これが生きる力になっていくと考えてい

る。

◎学校再編では、今、どんなことをやっているのか。

⇒ ■中学校1校、小学校2校に再編していくとする学校再編計画を平成29年1月に策定したが、平成29年3月議会で再編計画を進めるための事業予算が認められなかった。その後、市長が代わり、再編計画における学校の校数、再編する時期、再編の方法の見直しを指示された。今年は、見直しの取り組みとして、5月に結の故郷教育シンポジウムを開催し、学校再編に対するディスカッションを行った。5月28日からは中学校を皮切りに意見交換を行っている。その他、小中学生に学校についてのアンケートを行い、もうすぐ集計結果を公表する予定である。来年は、意見交換会での意見やアンケート結果を基に、再編計画見直しの案を作成し、再度、その内容について皆さんから意見を聞く予定としている。

◎運動会では子どもと弁当を一緒に食べていたと思うが、今は、教室で敷物を引いて給食を食べると聞いている。いつからそうなったのか。

⇒ ■有終西小では保護者と弁当を食べている。運動会に保護者が来れないとか、友だちと一緒に食べたいなどの配慮も必要である。また、平日開催と休日開催を隔年でしている小学校もある。平日開催では給食対応が多く、雨天で運動会が順延しやすい。土日の場合は給食の対応が難しいので、弁当にしている。

⇒ ◎いろいろ事情はあると思うが、寂しいと感じた。

⇒ ■以前、有終南小の保護者からは、弁当を作るのが大変であるという声がたくさんあったため、現在の対応になっていると思う。

◎再編計画が策定された時、学校を建てる候補地は決まっていたのか。将来、家を建てる予定であり、子どもが学校に通いやすい場所などを考えてしまう。

⇒ ■場所は決まっていない。本当は今日、場所などの案を示せば良かったのだが、今年いっぱい再編計画の見直し案を作るために、いろいろな意見を聞いているので理解して欲しい。

⇒ ◎希望であるが、夏休みの宿題を各学校、各学年で統一して欲しい。例えば、有終西小だけ1年生から読書感想文が宿題となっている。

⇒ ■学年に応じた課題は必要であると考え。それぞれの学校に特色があるため、すべての学校で同じような課題(宿題)は難しい。上庄中はNIEの研究指定校になっており、新聞作りに力を入れている。

※NIE(Newspaper in Education)は、学校などで新聞を教材として活用すること。

⇒ ◎再編と両立させていくのは難しいと思うが、学校の特色を残していくのは大事であると思う。

◎夏休みの宿題を減らすばかりが良いと思わない。やらせることで、子どもにとっては多少なりとも力になっていると思うので、ある程度は必要と思う。

⇒ ■学習の基礎的な部分は、繰り返しが必要と考えている。

⇒ ◎宿題は量が減ったら減ただけしかやらないと思う。減った分の時間をどのように使うかだと思うが、家庭で対応するのは難しい。勉強が嫌にならないようにしてあげたい。

⇒ ■有終東小では、夏休みの自主的な学習の例示を30ほど挙げていた。宿題などについては市全体で検討していきたい。

◎1・2年生の時の担任と3年生の担任の力量の差がすごくあることを感じている。1学年1クラスによる1人担任はアットホームで良いと感じていた。しかし、(複数担任と違い、教育指導などで教職員同士で)協力が出来ないというデメリットがあることを聞いていて、今はそれを痛感している。保護者はどうすればいいのか困っている。指導方法は、いろいろあると思うが、これからも教え方が変わらなかつたらどうすればいいか。

⇒ ■教職員の力の差は当然あると考えている。それぞれの力を引き上げていくのが教育委員会の使命だと思っている。また、学校全体の使命だと思っている。1つの方法として、保護者は校長や教頭などの管理職に相談することも考えられる。いじめなども同じである。学校の管理職や担任、教育相談者など、みんなが知恵を出しながら、対応を考えていかなければならない。

◎帰宅後、宿題が終わってから自分の好きなことをするよう言っているが、いつもマイペースである。いつになったら宿題を自分で進んで出来るようになるのか。どう導いていけばいいのか。

⇒ ■学年によって、手をかけなければならない時期はあるが、個人差は絶対ある。いっぱい愛情をかけて損をすることはない。どこで突き放すのかではなく、子どもはいずれ親離れしていく時期がある。最初は手がかかるが、出来たことを褒めて伸ばしていくべきである。手をかけた子どもの方が中学校へ行って伸びると思っている。

⇒ ■難しいことを考えず、一緒に子どもと何かをしてあげることが必要である。一緒にテレビを見る、一緒にゲームをする、一緒に宿題をする、一緒にお風呂に入るなど、出来る限り一緒に過ごしてあげることが大切であるとは言っても、なかなか難しいですね。



お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

